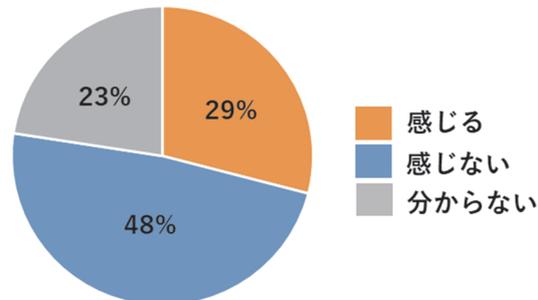


令和2年度第2回国有林モニターアンケート(結果概要)

1. 適切な森林整備の推進について

(1)ご自身の森林との関わりのなかで、森林の整備が十分されていると感じますか。



【理由】

1. 感じる

- ・送付資料により様々な取組がされていると知ることが出来たため
- ・時に土砂災害もあるが、広大な面積を管理・整備することは大変だと思う。十分整備されていると思う
- ・計画的に整備されていると思うため
- ・不整備を感じることはないため

2. 感じない

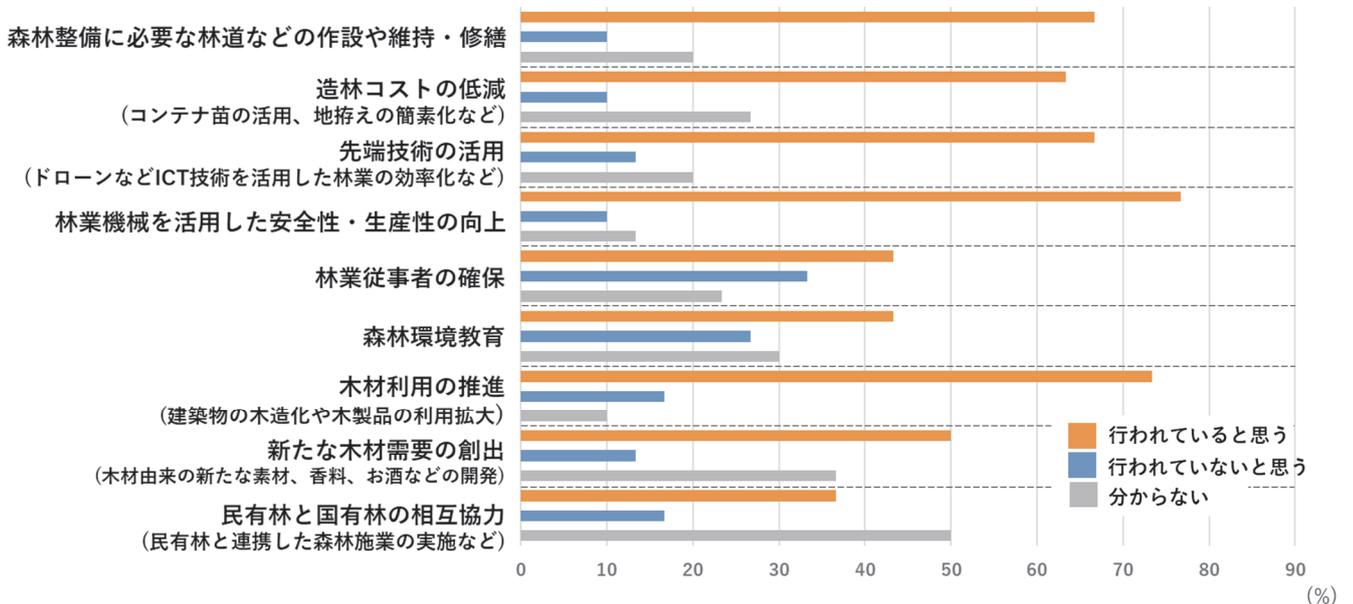
- ・近所では、細かい木が立ち並ぶ薄暗い森林をよく目にするため
- ・伐採された森林は目立つが、植林が不十分のように感じるため
- ・数年前まで整備されていた森林につながる林道が整備されない状態となり、手が加えられていない場所が見受けられるため
- ・自宅の周辺はスギの私有林が多いが、いずれも適切な管理が行われておらず、伐期を迎えても伐採の目途すら立たず、枯死した大径木が倒れるなど、被害も時として起こる状況であるため
- ・きれいに整備された森林を見たことがないため

3. 分からない

- ・4月からモニターとして広大な面積の国有林の整備状況を紹介する資料(情報誌)を見ているが、まだ数カ所を見学したに過ぎないため
- ・森林内を確認する機会がないため
- ・気軽にいくことのできる観光化された森林を散策する限りは、よく整備されていると思うが、私有林など奥深い山の森林の実態は目にしたことがないため
- ・私が今まで目にしてきた森林は比較的整備されていたように思うが、色々な情報から、放置されている森林は確実に増加しているのではとも感じているため

(2) 森林の持つ公益的機能の発揮のために、「伐って、使って、植えて、育てる」という適切な森林整備が重要です、

① 適切な森林整備を推進していくための取組は十分行われていると思いますか。



② ①で「2 そう思わない」、「3 分からない」と回答した方は、その理由を教えてください。

(森林整備全般について)

- ・情報誌や送付資料、ホームページ等を見て森林管理局の取組は理解できるようになったが、十分に行われているかと問われれば現段階では分からないため
- ・縦割行政の点的な施策が目立つ。特定の地域の成功事例をもっと積極的に共有し、全ての地域の森林整備が公平に行われるような面的な施策を展開するべきだと思う
- ・今年は国有林モニターという立場で取組を知る機会があったが、一般にもっと接する機会があればいいと思う
- ・森林整備→伐採→木材生産→使用のサイクルが回っていない
- ・国有林で考えれば森林整備がよく行われているかもしれないが、民有林も含めた日本全体の森林で考えると、十分とはいえない部分があると感じるため

(林道について)

- ・林道等は作業後2～3年後には管理されていないことが多く見られるため
- ・林道整備は自然保護、生態系の維持の観点から総合的に判断すべきと思うため

(林業従事者の確保について)

- ・林業に好印象を持たない人が多いと感じるため
- ・林業従事者の減少には歯止めがかかっていないように思われるため
- ・林業を職業とすることに関してあまり関わる機会がなくよく知らないということもあるが、もっとアピールできるものではないかと思う

- ・林業従事者の高齢化と確保のバランスがよく分からないが、機械化、自動化の推進で若い世代の採用をもっとすべきと感じるため
- ・森林の中での林業は重労働であるため、教育も必要と思う

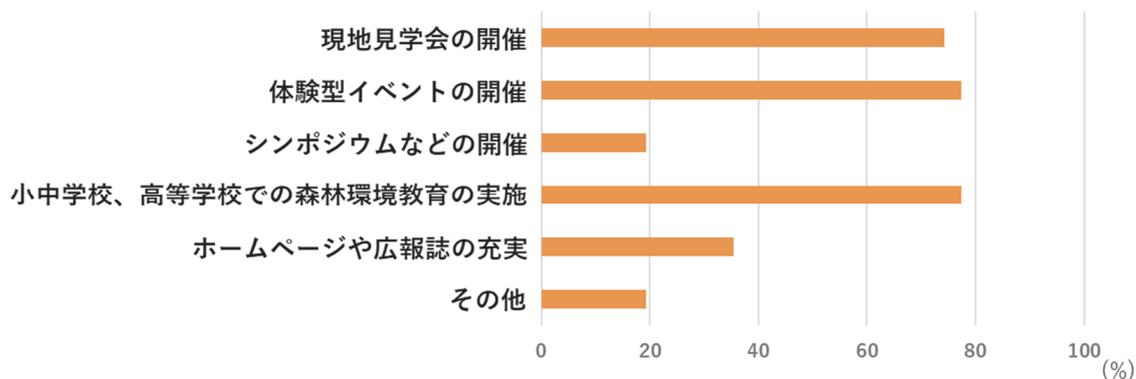
(木材の利用について)

- ・木材の新たな利用としての製品を目にすることがないため
- ・大規模建築など、一般でも目にしやすい木材利用は一応成果を上げたと思うが、林業の将来性を見いだす施策はさらに多様化するとよいと思う
- ・CLT パネル工法などは利用拡大の方向にあると認識しているが、セルロースナノファイバーなど新たな素材に関するPRは少ないと思う

(民有林と国有林の相互協力について)

- ・国有林と民有林の協働は私の森林組合ではあまり良好とは思えない状況であるため
- ・民有林と国有林の相互協力について全く詳しい情報を得ていないので具体的にどのように進められているのか分からないため

(3) 適切な森林整備の取組を一般に広く発信していくために、どのような取組が必要だと感じますか。



【その他】

- ・森林の重要性が分かるような取組
- ・薪ストーブ利用者への森林材の状況の発信(薪販売業者の情報収集、情報発信)
- ・マスコミ報道によるPR(例:ドキュメンタリー番組の制作や新聞の意見広告など)

「1. 適切な森林整備の推進について」 まとめ

「森林の整備が十分に行われていると感じない」と回答した人は 48%でした。「細かい木が立ち並ぶ薄暗い森林をよく目にする」、「伐期を迎えても伐採の目途が立たない」など、自宅周辺の森林において適切な管理がされていないとのご意見をいただきました。

森林整備を進めていくための取組について、すべての項目で「十分行われている」が「十分行われていない」を上回りました。このうち、十分行われているとの回答が多かったのは「林業機械を活用した安全性・生産性の向上」、「木材利用の推進」、「先端技術の活用」、「林道などの作設や維持・修繕」、「造林のコスト低減」でした。一方で、十分行われていないとの回答が多かったのは「林業従事者の確保」、「森林環境教育」で、林業を若い世代へPRすることや、将来世代への教育が必要とのご意見をいただきました。分からないとの回答が多かったのは「民有林と国有林の相互協力」でした。

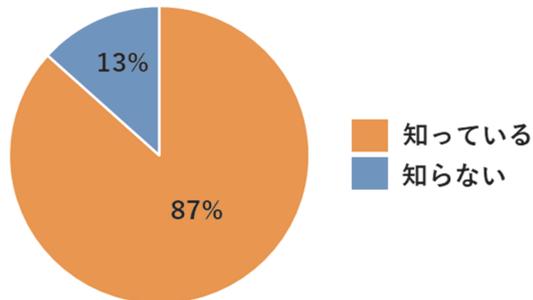
森林整備に関する取組を一般に広く発信していくための取組として必要だとの回答が多かったのは、「体験型イベントの開催」、「小中学校、高等学校での森林環境教育の実施」、「現地見学会の開催」で、体験機会の充実、児童生徒への教育が求められていることが分かりました。

民有林においては、森林の経営管理の集約化や森林所有者の経営意欲の低下などの課題を抱えており、適切な森林整備を担保し、公益的機能の確保や林業経営の効率化を進めるため、平成 31 年度に森林経営管理制度が導入され、あわせて森林環境譲与税・森林環境税が創設されました。このような状況からも、民有林、国有林ともに適切な森林整備が推進されるよう、東北森林管理局で実施している様々な取組において民有林と相互協力することが重要です。しかし取組が認識されていないことから、取組の一層の推進と情報発信に努めてまいります。

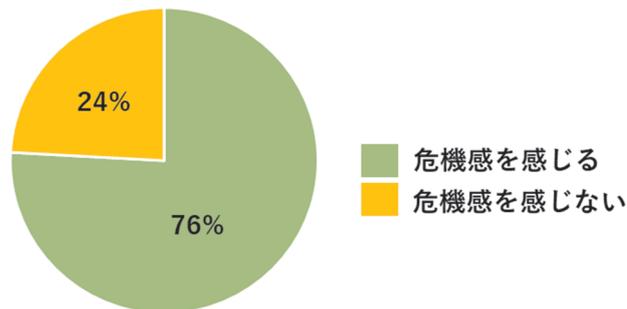
2. シカによる森林被害防止対策について

東北森林管理局管内においても、シカの生息域が拡大傾向にあり、今後森林被害の拡大が懸念されています。

(1) 東北森林管理局管内においてシカの生息域が拡大していることをご存知ですか。



(2) 今後、シカの個体数が増加すると森林被害が拡大する恐れがありますが、森林被害が発生することに危機感を感じますか。



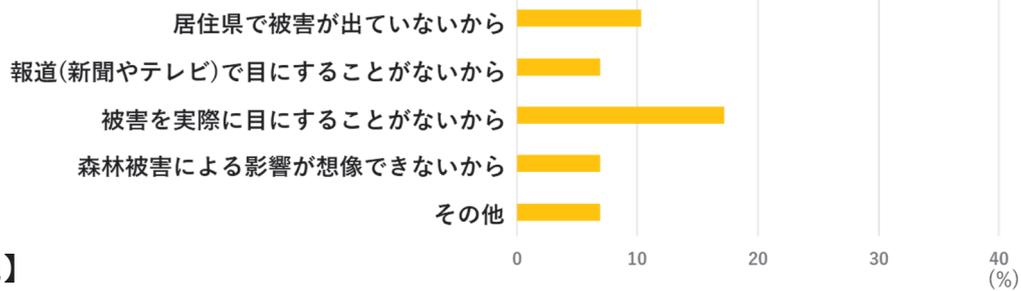
<危機感を感じる>



【その他】

- ・登山口でシカを目撃したため
- ・SNS での動画

<危機感を感じない>

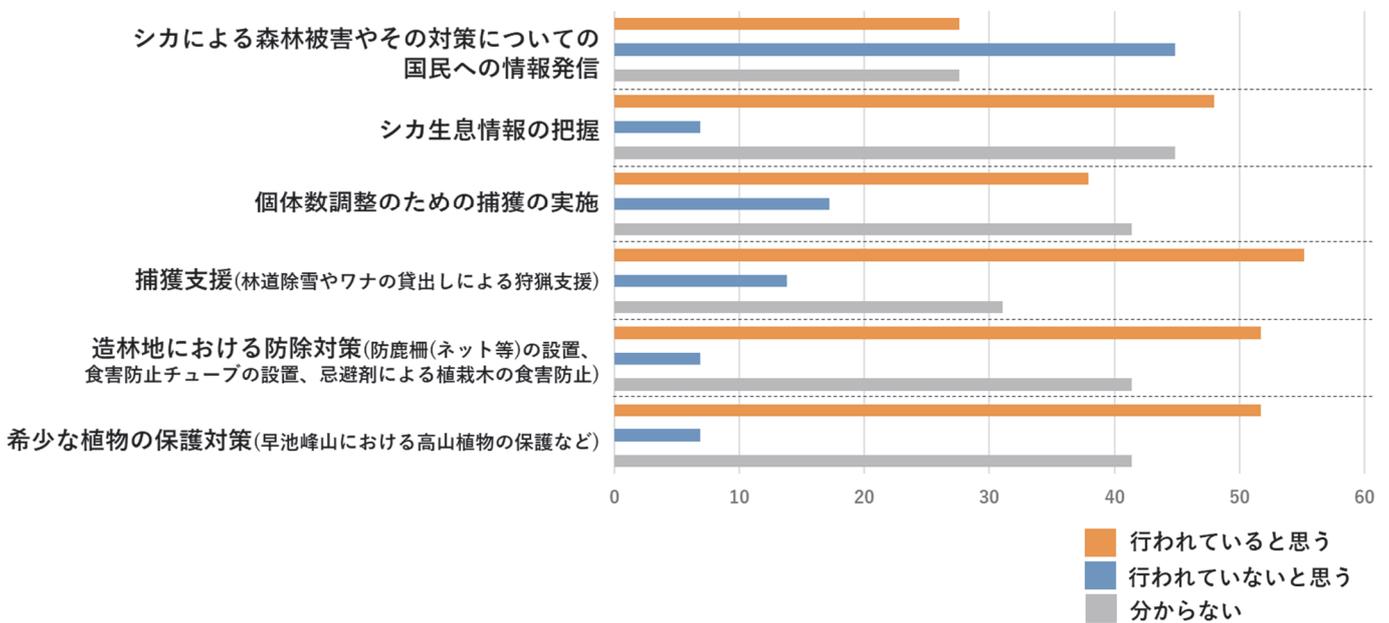


【その他】

- ・現状個体数が少ないため

(3)シカによる森林被害について、

①シカによる森林被害防止の取組は十分行われていると思いますか。



②①で「2 そう思わない」、「3 分からない」と回答した方は、その理由を教えてください。

(シカによる森林被害全般について)

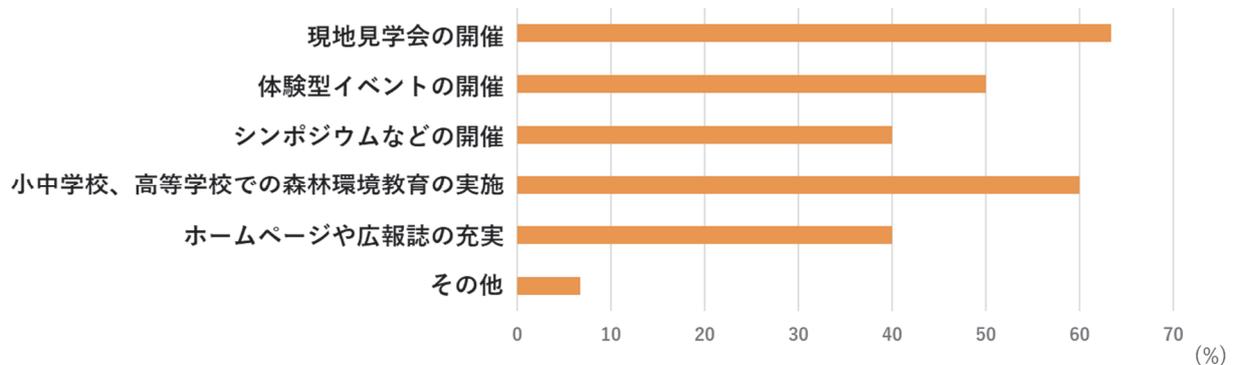
- ・報道がされておらず、居住地や近隣市町村からの情報もないため
- ・山菜採りや登山で山に入るが、シカ等を目撃したことがないため
- ・サルやクマのニュースはよく耳にしていたが、シカによる森林被害については、生息数の増加、生息域の拡大共に、今回の現地見学会で初めて知ったため

(捕獲について)

- ・捕獲支援はさらに行った方が良く思うため。また、捕獲方法をさらに考えていく必要があると思うため
- ・狩猟や捕獲に携わるマンパワーの不足、シカ肉の処理や利用の推進への方策が十分ではないと感じるため

- ・捕獲が行われているが、それでも数が減らないということは、「十分」ではないと推測するため
 - ・シカによる被害とあるが、シカの生活領域をそもそも壊したのが人間ではないかと思うこともある。
- ある程度野生動物が人里に来ないで生きていけるスペースを作るのも人間の配慮だと思う

(4)シカによる森林被害防止対策を一般に広く発信していくために、どのような取組が必要だと感じますか。



【その他】

- ・農業被害など他の連動
- ・園児、小学生にシカ対策のポスターを募集。それにより保護者、祖父母にも情報発信ができる

「2.シカによる森林被害の防止について」 まとめ

東北森林管理局管内でシカの生息域が拡大していることを知っているとの回答は 87%でした。シカによる森林被害に危機感を覚えるとの回答は 76%でした。

危機感を覚える理由として多かったのは「すでに居住県で目撃や被害が出ているから」で、危機感を覚えない理由として多かったのは「被害を実際に目にすることがないから」でした。

シカによる森林被害防止の取組について、十分行われているとの回答が多かったのは「捕獲支援」、「造林地における防除対策」、「希少な植物の保護対策」でした。一方で、捕獲は行われているが、マンパワー不足、生息数が減少していない等、課題も多いことから十分とは言えないとのご意見がありました。

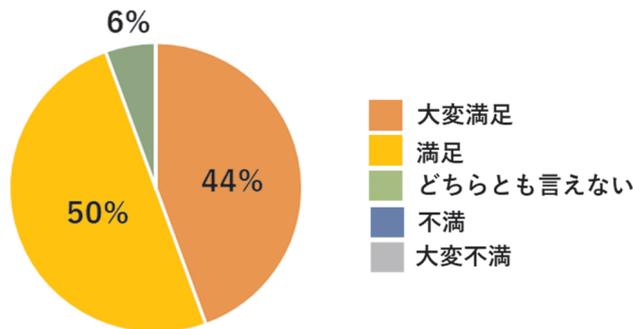
十分に行われていないとの回答が多かったのは「シカによる森林被害やその対策についての国民への情報発信」でした。これは「造林地における防除対策」、「希少な植物の保護対策」、「シカ生息情報の把握」など、十分に行われているとの回答が多い項目でも、分からないとの回答が一定数あった結果からも、情報発信が不十分であることが分かりました。

一般に広く発信していくために必要な取組として、「現地見学会の開催」、「森林環境教育の実施」が約6割で、取組を実際に見学できる機会の充実、児童生徒への教育が求められていることが分かりました。森林環境教育を通じた保護者等への情報発信も有効とのご意見もいただきました。

シカによる森林被害は、被害が発生していない地域では身近な問題として捉えにくいことから、積極的な情報発信に取り組むとともに、関係機関と連携した被害の防止対策に取り組んでまいります。

3. 第2回現地見学会について

(1) 現地見学会全体の満足度について教えてください。



【ご感想・ご意見】

(大変満足・満足)

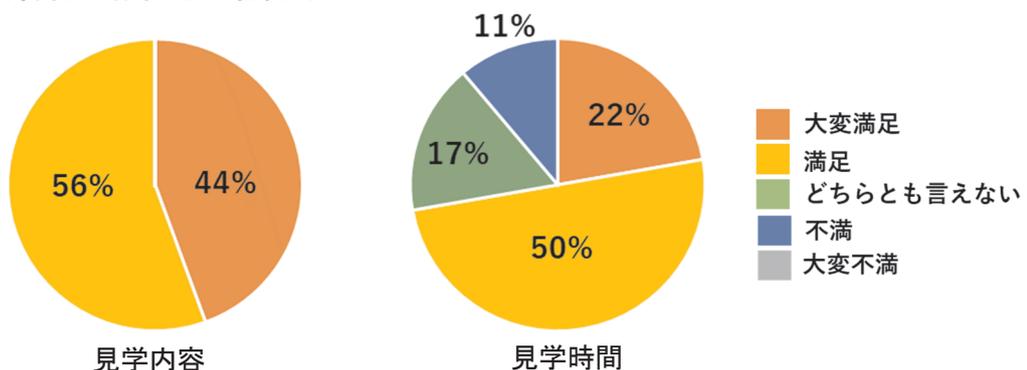
- ・一般の人では体験できない国有林野内で行われている事業、施業について見学出来たため
- ・何もかも知らないことばかりで、とても学習になった
- ・移動時間が長く、見学や食事が慌ただしかったのが残念ではあったが、濃い内容だったと感じた
- ・遠野市内に住んでいるため、最初の視察現場である土留め柵は、以前も見たことがあったが、説明を聴きながら見ることで、理解が深まった。また、ハルニレ林の存在や、路盤材の改良、支署内の見学など、初めて知ること、体験することが多く、貴重な機会だった。裏を返せば、遠野市に住んでいても、地域の国有林の事業を知らない人が殆どであるとも言えるため、勿体ないと感じた
- ・支署長の林業行政に対する誇りをとても強く感じ、支署長が駆動的になっていると思った
- ・自身の住んでいる地域にもシカが来ているので、多方面に見学の内容を発信したい
- ・遠野支署の歴史や見学、写真撮影、伝承園でのランチ、現地説明、道の駅立ち寄りなど、スケジュールをよく考えてくださったため

(どちらとも言えない)

- ・林道の維持修繕の取組の見学はよかったと思うが、シカの食害防止やワナの実演は琴畑の奥までいかなくても見学できたと思う。ハルニレ林の見学ができなかったのは残念

(2) 当日の見学内容について教えてください。

<遠野支署管内概要と庁舎見学>



【ご感想・ご意見】

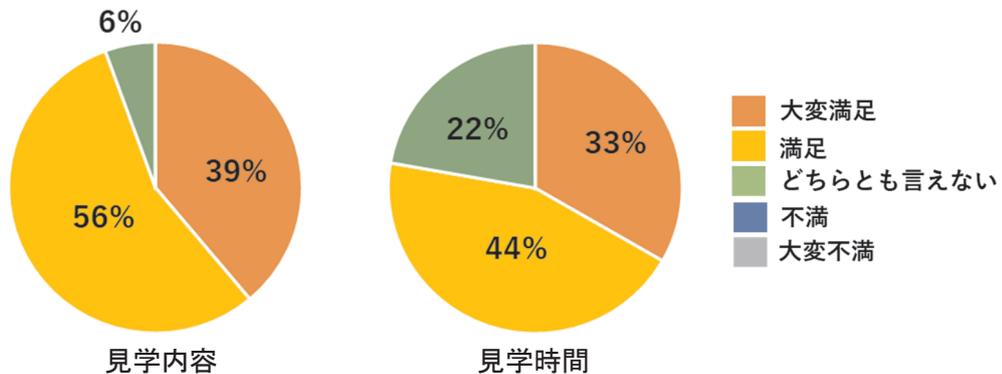
(大変満足・満足)

- ・分かりやすい資料(遠野支署のあらまし、管内の沿革、事業内容、取り組んでいる施業など)や署内の見学等がよかった
- ・限られた時間しかない中、見学することができて良かった。敷地内に「山の神」を祀っているところはさすが森林管理署だと感じた
- ・具体的に職員が日々どんな業務をしているのかを知りたいと思った。ひとつの事業に対する業務プロセスが例示されると良かった
- ・内装に木材をふんだんに使っていることは良かったが、会議室の壁材は合板だった。なぜ無垢材を使用していないのかと気になった
- ・木造のシンプルな庁舎も美しかったが、敷地内のオオモミジやカスミザクラのお陰で遠野の町並みに溶け込んでいるのだろうと思った
- ・庁舎よりも施業で用いる特殊な道具や機具などの説明があるとよいと感じた
- ・庁舎見学は必要だが、概要については各自資料で確認すればよい。1日の日程で時間が少なく、概要等の説明時間を他に振り替えてほしかった

(どちらともいえない・不満)

- ・貴重な建物などを見ることができた。あと20~30分時間があればよかったと思う
- ・もう少しゆっくり見学できればなおよかった

<林道の維持修繕への取組について>



【ご感想・ご意見】

(大変満足・満足)

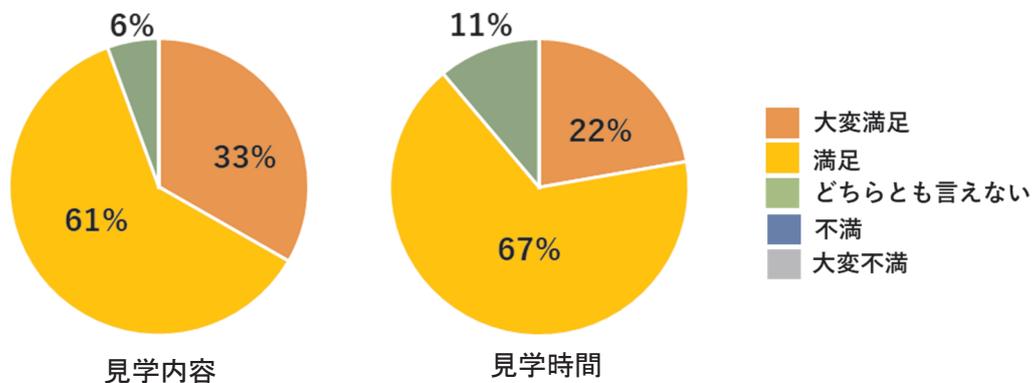
- ・路盤材が改良されていることは初めて知ることだった
- ・災害の結果から対応策の実施が見られた。自然との戦いでこまめに実施されていると思う
- ・鉄鋼スラグによる路盤工において、遠野市が釜石港から近いという地の利を生かして、材料の運搬賃をおさえ、全体のコストを下げることができたという説明が非常に納得できた。各々の土地に合わせた修繕が求められる難しさを感じた
- ・南沢林道の鉄鋼スラグ舗装は、どこでもできる工事ではないことが今後の課題だと感じた

- ・雨台風や、記録的な集中豪雨が毎年発生しており、林道の維持修繕には膨大な経費がかかると思う。大きく壊れる前に計画的な維持・修繕を引き続きお願いしたい
- ・林道の維持修繕を行うことにより森林の整備を進めることができると思うので更に予算をもらって取り組む必要があると感じた

(どちらともいえない・不満)

- ・林道維持は難しいものがあると思う。毎年の天候(大雨など)によって大きく変わる。重点的な修繕はなかなかできないと思う
- ・やはりじっくり見たかった

<シカによる森林被害防止対策について>



【ご感想・ご意見】

(大変満足・満足)

- ・シカの被害対策には予算的に無理があるのではないかと感じた
- ・減らすことが難しいのであれば、ジビエ等の事業を展開するなど、活用することはできないかと感じた
- ・ニホンジカの行動範囲が広く、被害防止することは多くの対策が必要だと思う
- ・1頭ずつの捕獲という手法と、多頭捕獲を両立していければ良いと思う
- ・ワナの実演もあり、興味深かった
- ・林業被害より、農業被害についてよく見聞きし、猟友会の方のお話も聞く機会があるので、対策の必要があることは理解しつつ、捕獲されていることには純粋に心を痛める
- ・先取が実施しにくい防止策をこまめに実施、実行していると思われる
- ・シカの増加の原因を作ったのは人間なので、駆除ではなく共存の方法を考えてほしいと思った。生態系の保護の重要さはわかりますが、シカを含む動物たちの命にも目を向けたい
- ・東北地方全体で被害防止に取り組む必要がある。白神山地でも個体数が増えているようだが、自然保護を含めたさらなる対策を期待します
- ・予算にも限りがあると思うが、増加傾向にあるのが気になる
- ・「いのしか御用」や「小型囲いワナ」を初めて目にしたが設置の手間や実際に捕獲できたシカの

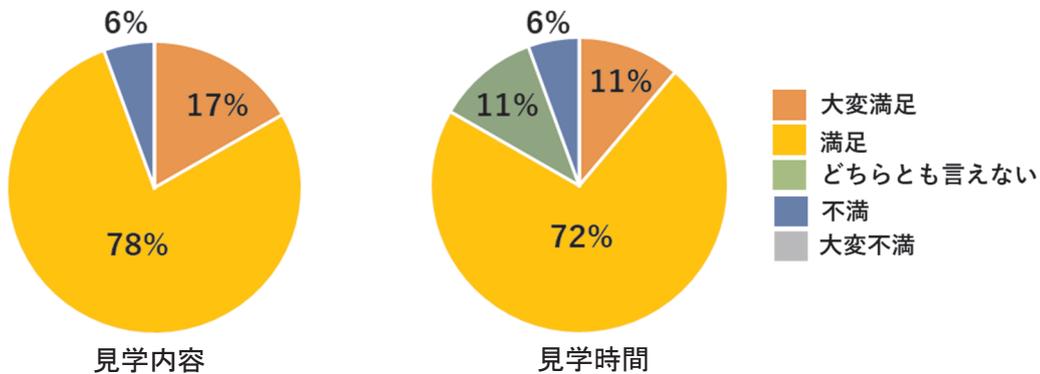
頭数を考えると、対策がシカの増加に追いつかない状況が理解できた

- ・植栽木に取り付けた保護チューブを初めて見た。これからも野生動物による食害防止対策の機材を研究、実験して情報提供をお願いしたい
- ・植栽した幼木への保護チューブの設置や保存活動の取組がよかったと思う

(どちらともいえない・不満)

- ・くくりワナ、保護チューブなどを見学できた事はよかった。ただ、見学時期を検討した方がいいかと思う

<琴畑水源遊々の森の取組について>



【ご感想・ご意見】

(大変満足・満足)

- ・短期間で結果は出ない活動ですが、とてもいい取組だと思う
- ・本再生プロジェクトは期限などをもうけず、長期にわたって続けてほしいと思った
- ・琴畑川流域の美しさに驚いた。エコネットや小学生による植林の取り組みは知っていたが、初めて現場まで行った
- ・地元の児童、生徒だけでなくより多くの市民やボランティアの参加を促して植栽活動を進めていけたらと思う
- ・水源の維持・管理の重要性を考えさせられた。単に水源だけではなく、植物との多様性もあると感じた
- ・他でもやっている取組だと思うが、効果はどのくらいなのか資料がなく費用対効果が分からなかった

(どちらともいえない・不満)

- ・全く知らなかったが、貴重な森でもっと知りたいと感じた
- ・どこがハルニレ林かも分からなかったので不満である
- ・取組自体は素晴らしいことだと思うが、今回の見学ではあまり説明が行われなかったように思う

(3) 今回の現地見学会についてご意見・ご感想等がございましたら教えてください。

- ・自分には何もできないが、とても考えさせられた見学会だった。そして有意義だった
- ・多くの施業、取組を見学できたことは満足だが、時間に追われ、早足で回ったという感じを受けた
- ・見学時間を多く、移動時間を少なくするという意味でも、現地を管轄する森林管理署を集合、解散にした方が良いのではと思う
- ・コロナでなければ移動中のバスの中で「質問コーナー」などと称して、質問できればと思った
- ・シカの被害や昨今のクマの里街中への出没なども、森林整備の未着手などが原因の1つでもあるのかと感じた
- ・シカ、林業との関わり、難しい面があると思うが、自然との多様性をもっと研究する必要性があると思った
- ・実際に森林や森林保全の取組などを見ることができ、大変参考になりました
- ・水や食料、CO2 削減には皆が感心を持っていますが、そのどれにも健全な森林が深く関わっている事を再認識した
- ・国有林や民有林を守るためには①温暖化や自然災害との戦い、②シカやイノシシ、ノウサギによる食害、③松枯れやナラ枯れの拡大等々、人間の手で何処まで対応できるのか
- ・コロナ禍の影響で首都圏を中心に三密を避けてアウトドアへの興味関心が高まってきているので、森林再生ツアーなどを行えないかと(もちろんコロナ収束後ですが)
- ・動画にまとめて YouTube にチャンネル開設してもいいのではないかと。みどりの女神のナレーションなどあれば楽しいかもしれません
- ・情報発信をお願いしたい

「3.第2回現地見学会について」まとめ

現地見学会全体について、「大変満足」「満足」の割合は 94%と多くの方に満足していただくことができました。一方で、もう少しゆっくり見たかった、慌ただしかったといったご意見をいただき、今後の現地見学会の開催に役立ててまいります。

見学内容について、林道の維持・修繕の見学では、森林整備の基盤となるため予算を確保して実施してほしいと期待する意見がある一方で、自然災害が多発するなかでの維持・修繕は難しいのではないかとのご意見をいただきました。シカによる森林被害の防止の見学では、捕獲事業に関するご意見のほか、ジビエなどへの活用や駆除以外の対策方法等のご意見をいただきました。琴畑水源遊々の森における森林環境教育の取組については、継続して実施してほしい、児童生徒だけではなく市民やボランティアの参加を促してほしい等の前向きなご意見をいただきました。国有林の取組に関するご意見については、今後の国有林野の管理経営に役立ててまいります。